第１回高幡地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日　時：平成 22 年 9 月 6 日（月）14:00～16:30
場　所：須崎市総合保健福祉ｾﾝﾀｰ会議室 1･2

１　議事等

（１）全体スケジュール等について

22 年度の年間スケジュール等を説明

（２）地域アクションプランについて

１）H22 年度の取り組みの進捗状況について

・37 項目の地域アクションプランのうち、特に動きのあった項目及び一部取組が進んでいない項目について説明
・総合支援事業費補助金の導入事業について説明
（導入 10 件、うち 4 件が本年度の継続事業）

２）修正・追加等の案件について

地域アクションプランの追加検討項目 4 件について説明
追加項目 1 件について承認

（３）産業成長戦略について

１）H22 年度の取り組みの進捗状況について

①アンテナショップ「まるごと高知」の状況について
②ポスト龍馬博の推進について
③ふるさと雇用再生特別基金事業の活用について

【意見交換】

○地域アクションプラン

・ 木質バイオマスについて、計画の約６割の生産と伺ったが、ＪＡ四万十管内の興津地区においてペレットの暖房機が使用されており、現在は岡山から取り入れている。木質と皮が混合されており、灰が多いので、芯を使ったペレットを活用する方法で、地域にあるものは地域で利活用できれば輸送コストの削減や地産地消に繋がると思うが、活用は可能か。
→木質ペレットには、ホワイトとブラウンの２種類あり、梼原町さんの工場対応はブラウンで、興津地区はホワイト対応の機械を導入している（改良型によりブラウンが使える状況になっている）。生産体制を拡大しないと地域での活用は難しいが、他の地域にもホワイトを生産するペレット工場ができる予定なので、県下全体の生産調整をして、県内産のペレットを使う方向で動いている。
→梼原ペレットの製造の現状は、今年 3 年目を迎え、目標の 1,800ｔ／年の販売は確約されている。原木からペレットを製造する工場の調整に取り組んでおり、１時間１ｔで１日 8ｔを 225 日稼働して 1,800ｔを製造する計画。４月から７月までの状況が約６割ということで製造が遅れている状況だが、矢崎さんとの共同で技術の指導を受け、１時間１ｔを何とかクリアできる状況までこぎ着けている。１日 8 時間の稼働なので、工員を増員して 1,800ｔの製造を確保していきたいと考えている。

・ペレットの地産地消はぜひ取り組んでもらいたいが、最終的な灰の処理も課題。灰は、コンニャクづくりにも使われ身体に摂取されているので、産業廃棄物ではない整理ができるのではないか。国の法律を変えてもらえるよう、ぜひ、県や皆さん方のご支援、お知恵をいただきたい。
→灰の産廃は、実はその点が木質のボイラーを活用する課題になると考えている。関係機関等と連絡を取り合いながら、何とか活用できる方策はないか検討しているところ。できるだけ使える道を探っていきたいと考えているので、皆さんのご協力をお願いしたい。

高知県産業振興推進部　計画推進課　（地域担当）
電　話　　088-823-9334
ＦＡＸ　　088-823-9255
メール　　120801@ken.pref.kochi.lg.jp

・四万十町の滞在型市民農園は、利用者のなかで移住を希望されている方が３人程おいでるようだが、目的のひとつである「新規就農への移行」を実現するには、何千万円も経費がかかる。金融機関からの貸し出しも難しい現状だが、そういった面のフォローは何か考えられるのか、お伺いしたい。
→就農する際の資金面の問題については、言われるように無利子の資金等はあるが、保証人等々の問題がある。ただ、就農される方に多額の資金をお貸ししても、後々の経営を圧迫することも考えられるので、ケースバイケースでご本人を含め、関係機関の方々と考えていく必要がある。無利子の資金を中心にしながら、四万十町では研修資金もご用意いただいているので、それらを活用しながら、できるだけ多くの方に就農していただくために、関係者の方々と一緒に取り組んでいきたい。

・かつて浦ノ内湾は、毎日 100 隻以上のアサリ捕りがおり、毎日昼までで１万円、２万円位の金額が取れていたが、最近は 1,000 円、2,000 円、船も少なくこのままでは絶滅するんじゃないかというくらい少なくなっている。愛知県三河湾も同じ状況だったが、三河湾一帯に産卵場所をいくつも決めてたくさん放流して、何年もかかって取組んだ結果、元の状態に戻ったということを視察で聞いてきた。浦の内もそういう取り組みをしてはどうか。
→地域アクションプランの行動の計画の中にないので簡単に説明させていただく。現在、浦の内湾でのアサリ資源回復については、土佐市が事業主体となって、国の環境・生態系保全対策事業という形で地域の皆さんとともにアサリ資源回復について努力している。
愛知県の場合は、矢作川の河口域で酸素が欠乏してアサリが死んでしまうという状況もあったので、酸素欠乏になる前に、ここで捕ったアサリの稚貝を別の場所に移して放流するという、移植という形を取って成功している事例だと思う。稚貝の放流については、他の場所から持ってきて単に放流すると、外来の生物がそこで繁殖して、それが元でかえって大きな被害をもたらしたり、寄生虫が入ってきたりするので、安易な放流は諌めるように土佐市の方に指導している。やはり地域地域に応じた増殖のための的確なプランというものがあるかと思うので、それを我々水産試験場と土佐市とで一生懸命考え、その地域に一番適した方法で資源回復を図っていこうという試みを行っている。

・日本の海水浴場百選に選ばれている興津海岸で開催されるビーチバレーイベントが、来年度で 10 回目を迎えるため、行政に記念大会の予算をお願いしているところだが、興津の小室の砂が非常に少なくなってきている。小室の浜に山の方から河川が流れて海の方、河口部分に非常に多くの砂が堆積をしており、四万十町、四万十町観光協会、ビーチバレー実行委員会、そして興津の３地区の区長さんの連名で堆積した砂を興津の小室の浜の方にポンプアップするなど、何らかの方法を県の方にお願いしようということになった。
・22 年度から興津の新しい事業として、ダイビング事業を本格的に始め、先進地である土佐清水市の竜串海洋センターに指導いただき、緊急雇用の事業を活用して 2 名を雇用、今年１年間、来年 3 月まで取り組むこととしている。初心者の方が非常に多いため、すぐ近くのビーチで潜る稽古をする需要が非常に多いことが分かったが、小室の浜の西の端から実際にビーチに下りようとしても、防波堤があるので、下りることができない。県の管理している部分の土地から下の階段までほんの２、３ｍ、何とか道を付けていただけるような手配ができないか、ご理解、ご協力をお願いしたい。
→小室の浜、砂浜の幅が減っているということは認識しており、現在、毎年、浜の深浅測量を実施している。具体的な対策はなかなか難しいところがあり、取り組むとすれば構造物が主な対策になると思うが、あのような所に構造物を造ることにはならないと思う。いろいろな形で話しながらやっていきたいと思うが、今のところ特効薬というのには思い至っていない。道の話は、具体的に要望を聞いて、対応させていただきたい。